



令和7年度

東播地区消防本部（局）NBC 災害対策合同訓練実施計画書

高砂市消防本部

# 令和7年度東播地区消防本部（局）NBC災害対策合同訓練実施計画書

## 1 目的

消防を取り巻く環境は、災害や事故の多様化・大規模化、都市構造の複雑化、さらには住民ニーズの多様化等により、急激に変化している。こうした環境変化に的確に対応し、将来にわたって住民の生命、身体及び財産を守る責務を全うする必要がある。とりわけ、当地区においては、化学工場等の事業所における危険物や高圧ガス、毒劇物等の漏洩・流出に起因する化学災害（C災害）への備えが極めて重要となっている。これらの災害に対する的確に対応するため、兵庫県広域消防相互応援協定に基づく東播地区消防本部（局）の災害対応能力の向上及び広域的な連携強化を図り、もって市民の安全・安心の確保に資することを目的とする。

## 2 日時

令和8年2月4日（水曜日） 10時00分から12時00分まで  
予備日なし

## 3 場所

株式会社カネカ 高砂工業所構内（高砂市高砂町宮前町1-8）  
別紙1「訓練会場付近見取図」参照

## 4 訓練構成

シナリオ方式による実動の想定訓練を実施する。

## 5 訓練プログラム

項目	時間	項目	備考
想定訓練	10時00分	訓練開始	訓練進行の合図により開始
	11時30分	訓練終了	訓練進行の合図により終了
閉会式	11時40分	訓練終了報告 訓練講評	消防署消防第1部 梶原主幹 消防署長
訓練終了	11時50分	資機材撤収	—
	12時00分	解散	—

## 6 訓練組織

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| (1) 訓練指揮者        | 高砂市消防署長        |
| (2) 訓練進行統括者      | 高砂市消防署消防第1部主幹  |
| (3) 訓練進行兼訓練安全担当者 | 高砂市消防署1部警防担当係長 |
| (4) 訓練要員         | 東播地区消防本部（局）職員  |
| (5) 評価・安全管理員     | 東播地区消防本部（局）職員  |

## 7 参加機関

- (1) 東播地区7消防本部(局)(明石市消防局、淡路広域事務組合消防本部、加古川市消防本部、北はりま消防本部、三木市消防本部、小野市消防本部、高砂市消防本部)
- (2) 兵庫県警機動隊及び高砂警察署
- (3) 株式会社カネカ 高砂工業所

## 8 車両及び人員

- (1) 参加車両及び訓練隊員  
11台54名  
別紙2-1「訓練隊員一覧表」参照
- (2) 訓練要員等  
38名  
別紙2-2「訓練要員一覧表」  
別紙2-3「負傷者位置図」  
別紙2-4「負傷者情報一覧表」  
別紙2-5「訓練レイアウト及び評価・安全管理員配置図」参照

## 9 服装

株式会社カネカ高砂工業所構内においては、全員ヘルメット及びゴーグル又は、保護眼鏡(眼鏡可)の着用を必須とする。

- (1) 訓練参加隊員  
現場活動に対応した服装とする。
- (2) 安全管理員及び訓練要員  
活動服、編上げ靴、革手、ビブス
- (3) 要救助者  
私服(持参)、ビブス  
※ ビブスは事務局が準備し当日配布します。

## 10 想定訓練概要

- (1) 訓練想定  
令和8年2月4日(水)9時50分頃、株式会社カネカ高砂工業所構内においてプラント施設のタンク付近から異臭がし、多数の負傷者が発生したとの会社従業員からの119番通報。現在自衛消防隊が現場到着しており、状況把握を行っているが、異臭原因にあっては不明。周囲には複数の危険物施設や毒物及び劇物の貯蔵取扱い施設がある状況。
- (2) 活動原則  
この訓練は、東播地区消防本部(局)が相互に連携を図り、効率的かつ組織的な活動を実施し、隊員の安全管理を図るとともに、要救助者の早期救出、被害の拡大防止を原則とする。

訓練で使用する水利は、訓練会場に事前設置した簡易水槽(2基)及び指定の屋外給

水栓を使用すること。

(3) 重点項目

- ア 最先着隊の情報収集及び初動対応（進入統制ラインの設定等）
- イ 指揮本部の設置及び運営
- ウ 進入・退出隊員の管理
- エ 簡易検知活動による活動区域の設定（ゾーニング）
- オ 人命検索及び救助活動（ショートピックアップ等）
- カ 迅速な除染活動
- キ 剤の拡散防止
- ク 原因物質の特定
- ケ 受援隊及び応援隊の連携

11 進行要領

- (1) 訓練参加隊員及び車両は、9時15分までに株式会社カネカ高砂工業所前に集結。職員誘導のもと9時30分までに株式会社カネカ高砂工業所構内待機位置に集結完了し待機すること。

別紙3-1「訓練使用場所図及び進入経路図」

別紙3-2「訓練参加車両待機位置図」参照

- (2) 安全管理員、訓練要員及び負傷者は、9時10分までにカネカグラウンドに集合。送迎車両乗車後、参加車両待機場所まで移動。待機場所のテント内で着替え等を行い、ブリーフィング実施のため9時40分までに訓練本部前に集結すること。

別紙3-1「訓練使用場所図及び進入経路図」参照

- (3) 260M/Hz無線機（消防波）の代替えとして400M/Hz無線機（署活動波）の「G8」を使用し、応援消防本部（局）との交信に使用する無線機は、260M/Hz無線機（主運用波）の代替えとして400M/Hz無線機（署活動波）の「G16」を使用する。

さらに、400M/Hz無線機（署活動波）「活動波1」の代替えとして400M/Hz無線機（署活動波「G12」、を使用する。

別紙4-1「無線機等運用表」

別紙4-2「無線機使用ch一覧」

別紙4-3「各無線機運用イメージ図【活動隊】」参照

なお、訓練開始後、無線ch統制等については、現場最高指揮者の指示によるものとする。

- (4) 各訓練車両は、訓練要員（出発合図員）の指示に従い出動すること。

- (5) 訓練は、10時00分に開始し、11時30分をもって終了とする。

また、訓練終了時分までに全ての負傷者の搬送、原因物質の収去等が終了すれば、その時点で訓練終了とする。

別紙5-1「訓練進行表」

別紙5-2「訓練時系列」参照

- (6) 閉会式は、11時40分から株式会社カネカ高砂工業所構内で実施する。

閉会式の服装にあつては、活動服、編上げ靴とし、訓練指揮者の指揮の下、各隊北向きに一列縦隊で整列すること。

(※ 要救助者役、要員・指令課員は2列縦隊で整列すること。)

別紙6「閉会式隊形図」参照

## 12 安全管理

- (1) 安全管理の基本は自己にあることを認識し、資機材の点検、体調管理及び訓練中における安全確認は確実にを行うこと。
- (2) 指揮監督的立場にあるものは、常に隊員の行動を監視し、安全確保に努めること。
- (3) 安全管理兼評価者及び訓練要員が、安全管理上訓練の中断又は中止と判断した場合は、指示に従うこと。

## 13 留意事項

- (1) 使用資機材は、事前点検を十分に行うこと。
- (2) 車両走行時は、一般交通規則に従い、交通事故防止に十分留意すること。
- (3) 企業構内を使用した訓練のため、構内においては全員ヘルメット及びゴーグル又は、保護眼鏡（眼鏡可）の着用を必須とする。また、訓練使用以外のエリアには立ち入らないこと。
- (4) 施設等に損傷を与えないよう細心の注意を払い、施設保護に留意すること。
- (5) 訓練参加車両は訓練旗を掲げ、前照灯及び赤色灯を点灯するものとし、サイレンの吹鳴については本訓練で行なわない。
- (6) 当訓練で使用する駐車場の区域外は、一般車両が駐車しているため、事故防止に十分留意すること。
- (7) 見学者は、指定された場所で見学すること。見学者も全員ヘルメット及びゴーグル又は、保護眼鏡（眼鏡可）の着用を必須とする。また、見学時の服装は、消防職員として相応しい服装とする。
- (8) 企業構内を使用した訓練のため、訓練現場でのカメラ等の撮影については指定された場所以外では禁止とし、撮影した画像や動画の SNS 等への掲載は原則禁止とします。

## 14 中止の決定について

### (1) 判断基準（雨天決行）

ア 当該地域に警報が発令された場合及び道路上に積雪が確認できた場合

イ 大規模な災害が発生した場合、又は社会的影響のある大きい災害等が発生した場合

ウ その他訓練の実施が不可能であると判断した場合

### (2) 決定時刻

訓練当日の7時00分までに、高砂市消防本部が決定する。

### (3) 連絡体制

中止する場合に限り、高砂市消防本部から各関係機関に連絡する。

## 訓練会場付近見取図



訓練会場：株式会社カネカ 高砂工業所構内（高砂市高砂町宮前町1-8）

○ 加古川バイパス「加古川西ランプ」から南へ約 15 分

○ 国道250号線「古新西交差点」から南へ約 10 分

# 訓練使用場所図及び進入経路図



# 訓練参加車両及び要員進入経路図



※要員とは、安全管理員・負傷者役も含む

⇨ は訓練参加車両の集結場所までの進入経路を示す。

➡ は要員車両のカネカグラウンドまでの進入経路を示す。

6



《ポイント》

- ・ 特定事業所で、剤が特殊なものである可能性が高いため、情報収集や SDS（安全データシート）で早期に特性を理解し周知する。
- ・ 海辺で風が強く、拡散範囲が大きいため、剤の漏洩、封入及び拡散等の措置が急がれる。
- ・ 傷病者の搬送が長距離搬送であるため、呼吸器のエアの消費量に注意する。
- ・ 地形上レイアウトが訓練配置ではなく実務配置となる。



